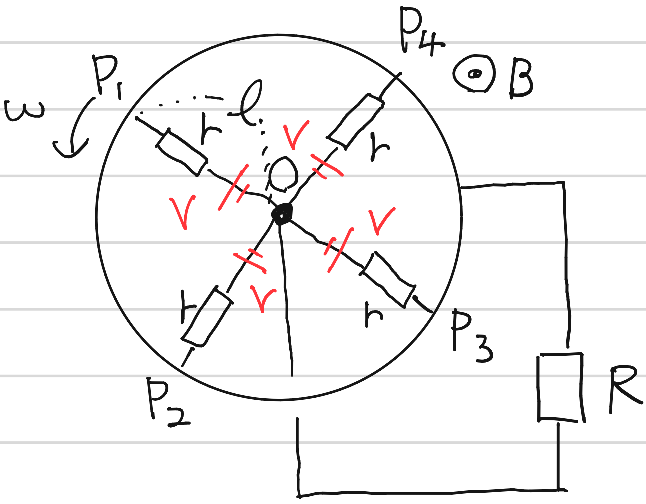
$\boxed{315}$

(1) 上から見た図



(ア)

起電力の向きは右ねじで考えて

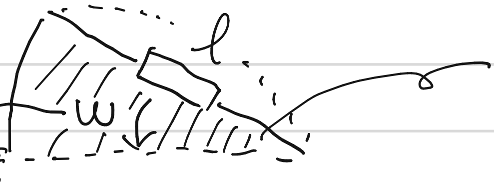
$O \to P_1$ 向き // (ア)

(イ)

大きさは、1sに横切る磁束の本数で考える。

1sで横切る面積Sは下図のようになる。

1sあたりの回転角度



$$S = l \cdot l \cdot \pi \cdot \frac{\omega}{2\pi}$$
$$= \frac{1}{2} l^2 \omega$$

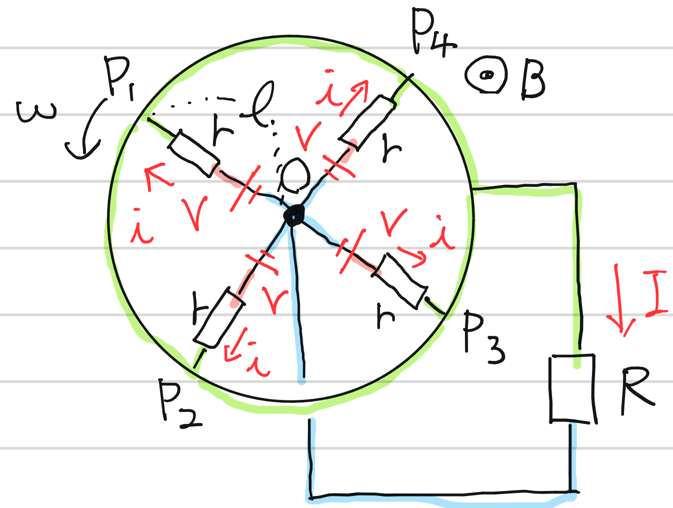
よって1sで横切る本数Φは

$$\Phi = BS$$
$$= B \cdot \frac{1}{2} l^2 \omega$$
$$= \frac{1}{2} B l^2 \omega$$

// (イ) これが起電力となる

315 続き

(2)



(ウ)

$P_1 \sim P_4$で発生する起電力は、すべて並列接続になっており、全てを合わせた起電力は、1つあたりのものと変わらない。

よって

$$V_{全} = \frac{1}{2}Bl^2\omega \quad /\!/ \text{(ウ)}$$

(エ)

rにかかる電圧をV_r、Rにかかる電圧をV_Rとする。
また、rに電流をi、Rに流れる電流をIとする。

回路の対称性より、全てのrに流れる電流iは等しいので

$$i = \frac{1}{4}I \cdots ①$$

$O \to P_1 \to R \to O$の経路でのキルヒホッフ第2法則より、

$$V = V_r + V_R$$

$$\Rightarrow \frac{1}{2}Bl^2\omega = V_r + V_R \cdots ②$$

オームの法則より、

$$V_r = ir$$

①より

$$= \frac{1}{4}Ir \cdots ③$$

$$V_R = IR \cdots ④$$

②に③、④を代入して

$$\frac{1}{2}Bl^2\omega = \frac{1}{4}Ir + IR \qquad \therefore I = \frac{2Bl^2\omega}{4R+r} \quad /\!/ \text{(エ)}$$

315 続き

(3)

(オ) エネルギー収支を考えると

1秒あたりの(外力による仕事) = (4つのrとRでの消費電力)

※ 消費電力は、1秒あたりのジュール熱

$$P = IV = I^2R = \frac{V^2}{R}$$

IとVが一定のときは、この公式で出せる.

よって

$$1秒あたりの(外力による仕事) = i^2 r \times 4 + I^2 R$$

$$= \left(\frac{I}{4}\right)^2 r \times 4 + I^2 R$$

$$= I^2\left(\frac{1}{4}r + R\right)$$

$$= \left(\frac{2B\ell^2\omega}{4R+r}\right)^2\left(\frac{1}{4}r + R\right)$$

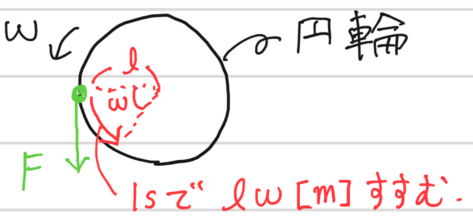
$$= \left(\frac{2B\ell^2\omega}{4R+r}\right)^2 \cdot \frac{1}{4}(r+4R)$$

$$= \frac{4B^2\ell^4\omega^2}{4(4R+r)} = \underline{\frac{B^2\ell^4\omega^2}{4R+r}}_{//} \ (オ)$$

(カ)

(仕事率) = (力) × (キョリ) の 1s 分 と考える

(1sでのうごき)



左図より、1sでの仕事Pは

$$P = F \cdot \ell\omega \quad (P = Fv \text{ といえる})$$

これが(オ)と等しいので

$$F \cdot \ell\omega = \frac{B^2\ell^4\omega^2}{4R+r}$$

$$\therefore F = \underline{\frac{B^2\ell^3\omega}{4R+r}}_{//} \ (カ)$$